

論文

ターリバーン統治の行方—ターリバーンと国際テロ組織の関係— 室達康宏

本稿の初出は、本論文の著者が海外情勢報告のため運営するホームページ ([HP](#)) 上の「調査レポート (202201)」である¹。

【目次】

1. 序文
2. ドーハ合意における非対称性
3. ドーハ合意事項（アフガニスタン人同士の協議）と米軍撤退を巡る実際の展開
4. ターリバーンと国際テロ組織との思想的なつながり
 - (1) 機関誌「スムード」
 - (2) 書籍「アフガンの大地のイスラームの星から」
 - (3) 論文「ターリバーンの思想の基礎」
 - (4) アラビア語広報の位置付け-資金集めの PR かターリバーンの思想の本質か
5. 取引材料としてのコミットメント
6. 最後に

1. 序文

アフガニスタンを拠点とする国際テロ組織アルカーイダによる 2001 年の米同時多発テロ攻撃（「9・11」）が同年の米国による軍事介入を招いた。アルカーイダだけでなく、アフガニスタンを統治するアフガニスタン・イスラーム首長国を名乗るターリバーン（“ターリバーン”）政権に対する軍事攻撃が同政権の崩壊と、その後 20 年も続く同国での戦争につながった。ターリバーンとアルカーイダなどの国際テロ組織との関係は、20 年ぶりに復権した第 2 次ターリバーン政権の行方における重要な課題の一つである。そこで、本稿では、2020 年のドーハ合意 Part 2 におけるターリバーンのコミットメント（=いかなる個人・組織にも米国及びその同盟国を攻撃する拠点としてアフガニスタンを利用させない）を踏まえ、ターリバーンとアルカーイダなどの国際テロ組織との思想的な関係に着眼し、論ずる。

2. ドーハ合意における非対称性

2021 年 8 月 31 日カーブルの国際空港から最後の米軍機が離陸し、同日、バイデン大統領は、アフガニスタンから全米軍の撤退が完了したと発表した²。これに先立つ、2021 年 8 月

¹ サイト名：グローバルリサーチ&リスクマネジメント URL: <http://www.global-research-riskmanagement.jp>

² [アフガニスタンから米軍撤退完了 「最も長い戦争」に終止符 | アフガニスタン | NHK ニュース](#) accessed on 15 March, 2022.

15 日にはカーブルが陥落しており、20 年ぶりにターリバーンが復権した。これは米国が、2020 年 2 月 29 日、カタールのドーハでターリバーンとの間で「Agreement for Bringing Peace to Afghanistan」と題する合意文書（“ドーハ合意”）を締結した帰結である。ターリバーンは、自らのメンバーやアルカーイダなどの組織が米国及びその同盟国の安全を脅かすためにアフガニスタンの国土を利用させない、とのコミットメントと引き換えに、スケジュールに基づく米軍を含む、全外国軍撤退のコミットメントを勝ち取っていた。

ドーハ合意は、その構成として、米国側のコミットメントである「外国軍の撤退 (Part 1)」とターリバーン側のコミットメントである「アフガニスタンにテロの拠点にしない (Part 2)」は、相互に関連すると定めている。相互関連とは、米軍撤退の段階を、2 段階のフェーズに分け、第 1 フェーズで米軍兵力を 8,600 名まで削減、その後、Part 2 のターリバーン側のコミットメントと行動（履行）を条件に、第 2 フェーズで全軍撤退を定めている³。しかしながら、米国は、第 2 フェーズへの移行（最終的な全軍撤退）を判断する時点で、ターリバーンが行う実際の履行状況を確認し、さらなる行動を迫る意図や余裕はなかった⁴。これに加えて、Part 2 は、継続的なコミットメントが求められる性質である。一方、外国軍の撤退は、ある時点で完了する出来事であり、2021 年 8 月 31 日に完了している。この点で、Part 1 と Part 2 は、相互に関連させるには非対称である。

3. ドーハ合意事項（アフガニスタン人同士の協議）と米軍撤退をめぐる展開

ターリバーンは、ターリバーン政権崩壊後の 2001 年 12 月「ボン合意」によって成立したアフガニスタン・イスラーム共和国（“アフガニスタン政府”）のカルザイ政権やその後のガニ政権は占領の傀儡であるとして、一貫して、交渉相手とは認めていなかった⁵。しかしながら、ドーハ合意の中で、ターリバーンは、外国軍撤退のコミットメントが示された後に「アフガニスタン人同士の対話」との枠組み、すなわち、初めて当時のガニ政権側を含める形で「停戦」と「将来の政治ロードマップ」を議題に協議することに合意してみせ、アフガニスタン平和への期待感を高めた。ところが、実際の展開は、ターリバーンによるアフガニスタン政府への軍事攻勢である⁶。交渉と並行して軍事攻勢を仕掛けることは、交渉を有利に運ぶための常套手段である。しかしながら、ターリバーンにとって、アフガニスタン政府との協議は、米軍撤退の時期が到来するまでの時間稼ぎ過ぎなかった。

ターリバーンは、2019 年 2 月にロシアが主催したモスクワ会合において「アフガニスタ

³ [Microsoft Word - 10_v1-T_Draft Text \[English - 20200229\] - Edited \(For State\).docx](#) 米国防務省 HP accessed on 15 March, 2022.

⁴ アフガニスタン国内のアルカーイダの存在、ターリバーンとの関係継続やアルカーイダが目立つ活動を控えている意図などは、米 3 省庁（国務省、国防省、国際開発庁）の情報を Lead Inspector General が取りまとめた 4 半期毎の「自由の番人作戦」議会報告書の中で繰り返し指摘されている。ターリバーンが、外国軍の撤退期限（2022 年 5 月まで）からの遅れは、「ドーハ合意違反」と見なし外国軍への攻撃再開を予告する中、米国は 2021 年 5 月 1 日からの全軍撤退開始、2022 年 9 月 11 日までの撤退を 2022 年 4 月 14 日に発表した。[Operation Freedom's Sentinel Quarterly Report to Congress, April 1, 2021-June 30, 2021 \(defense.gov\)](#) accessed on 15 March, 2022. なお、NATO 構成国の高官は、同決定を「条件付き撤退」から「無条件の撤退」への後退と批判していた。[Biden heads to NATO amid friction over Afghanistan withdrawal - POLITICO](#) accessed on 15 March, 2022.

⁵ [Taliban peace talks: Afghan government, shut out of process, rails against Washington - The Washington Post](#) accessed on 15 March, 2022.

⁶ 「自由の番人作戦」4 半期報告書 2020 年 ([DoD OIG Reports \(dodig.mil\)](#)) 及び 2021 年 ([DoD OIG Reports \(dodig.mil\)](#)) の Enemy initiated attacks の項目参照 accessed on 15 March, 2022.

ン・イスラーム首長国は、米国とその同盟国の占領に対してジハードを行っている。決して占領終了後の権力掌握を追い求めているわけではない」と演説した。その中で、アフガニスタン和平に向けた障害の一つとして「米国及びその同盟国による占領」を挙げた⁷。すなわち、諸悪の根源は外国軍の占領であり、占領の終了によりアフガニスタンの和平が実現するとの見解を表明していた。全米軍の撤退発表を受けた2021年4月のターリバーンによる大攻勢から同年8月15日のカーブル制圧に至る動きを今から振り返れば、ターリバーンは、最初から米軍撤退時の大攻勢を意図していた。外国軍さえいなくなれば、ガニ政権を武力で打倒するのは容易だと判断していたゆえである。これは、ドーハ合意中の「アフガニスタン人同士の協議」へのコミットメントは、長年、武装闘争を戦ってきた「外国軍撤退」の目標を実現するための方便であったと分かる。また、ターリバーンが目標とする「イスラームの統治」の実現には、アフガニスタン政府の統治のあり方・憲法、適用する法や権力分有でターリバーンの認識とは乖離⁸しており、武力で制圧できる相手とわざわざ交渉して妥結する意図はターリバーンにはなかった。

ドーハ合意は、「アフガニスタン人同士の協議」の開始を定めていたが、交渉の継続、進捗や妥結は、外国軍撤退の条件になっておらず、相互関連性はない。Part 1とPart 2の履行が「アフガニスタン人同士の協議（停戦合意・政治ロードマップの協議）の道を開く」との構成は、モスクワ会合におけるターリバーンの主張に沿っており楽観的である。この構成で、米国との交渉妥結に成功したターリバーンは、「占領の終了」に加え、ガニ政権打倒とターリバーン復権による「イスラームの統治」への道を拓くと認識した。それゆえ、ハイバトウッラー・アフンドザダ最高指導者は、2020年2月29日付の声明で、ドーハ合意の締結を「大勝利」と発表した⁹。ドーハ合意に含まれる「アフガニスタン人同士の協議」の正反対を追求したターリバーンが、外国軍の撤退を実現した後もドーハ合意のPart 2をいかに維持していくかが課題である。

4. 思想的なつながり

ターリバーンについては、内部資料が乏しく一次資料に基づく内在的な研究は進んでいない中、「スムード」などで発表される論文は、当事者の認識や世界観を知ることができる貴重な資料である¹⁰。当事者が示す世界観、思想や理念を把握した上で、政治行動への影響や優先を含めて政権運営への反映度合を見極めていく必要がある。

(1) 機関誌「スムード」

2020年2月のドーハ合意締結後の同年10月、「アル＝アラビーヤ」ネット版は、ターリバーン機関誌「スムード」の創刊号(2006年)からその時点の最新号(179号)までの全てをレビューした結果、ターリバーンとアルカーイダなどのグローバル・ジハードを掲げる組

⁷ 青木健太 2020 「ターリバーンの政治・軍事認識と実像-イスラーム統治の実現に向けた諸課題-」『中東研究』538号 69頁

⁸ 同上 71-73頁

⁹ [Message of Esteemed Amir ul Mumineen, Sheikh-ul-Hadith Mawlawi Hibatullah Akhundzada \(HA\), regarding Termination of Occupation Agreement with the United States - Islamic Emirate of Afghanistan \(alemaraenglish.af\)](https://www.alemaraenglish.af) accessed on 15 March, 2022.

¹⁰ 中田考 2021 『ターリバーン復権の真実』ベスト新書, 132頁

織との関係やグローバル・ジハードに親和的な思想傾向として以下を含む内容を報じた¹¹。

○2006年「スムード」創刊号¹²でターリバーン創設者のムッラー・モハメド・オマル最高指導者の声明を掲載し、その中で同人は、アブー・ムスアブ・アル＝ザルカーウィを「イスラーム共同体の英雄の中の英雄、騎士の中の騎士である」と称賛。

○アルカーイダのシリア支部（ヌスラ戦線）の宗務責任者アブドッラー・アル＝ムハイシニ¹³の記事を幾度も掲載。

○アブー・ヤヒヤ・アル＝リービー¹⁴、ユースフ・アル＝アイリー¹⁵他アルカーイダ幹部の論考を「スムード」で掲載。

○サラフィー・ジハード主義を信奉するシリア、リビア、イラク、ソマリアの過激派な武装組織の指導者やジハード論者の論考を「スムード」に掲載。具体的には、シリア人のアブー・バシール・アル＝タルトゥシー¹⁶、サウジアラビア人のサアド・アル＝ファキーフ¹⁷、クウェート人のハーキム・アル＝ムタイリィ、ヨルダン人のアブー・ムハンマド・アル＝マクデイシなど。

○2016年にターリバーンの指導部評議会は、サアド・アッラー・アル＝バルーシを編集部長に任命した。同人はカンダハルのキャンプでアルカーイダ戦闘員との間の通訳を務めた人物。同編集部長が、アルカーイダ幹部のサイフ・アル＝アデルの娘婿で、ビン・ラーディンの友人のムスタファ・ハーミド¹⁸を「スムード」の編集チームに加入するよう要請。ムスタファ・ハーミドはイラン在住のため編集チーム入りは断っているが、同人は「スムード」に連載を開始し、現在でも継続中。

○23号（2008年）では、編集局長名で「『スムード』の目的は、不信仰者とイスラームとの間の戦いにおける情報戦を担うこと」、85号（2013年）では「アフガニスタン人は、パレスチナ、シリア、ビルマを含め占領や迫害に苦しむ他のイスラーム教徒の苦しみを決して放置しない」と掲載。

○143号（2018年）では、「アフガニスタンからエルサレムへ」と題するムスタファ・ハーミドの論文を掲載し「パレスチナの解放は、ターリバーン運動の優先の一つであり、同解放は、アフガニスタンから開始される」と主張。

ターリバーンは、1994年「イスラーム教独自の救済運動」としてスタートし、地域限定型のイスラーム運動の性格を有するとされる¹⁹。一方、90年代後半からアルカーイダなどの

¹¹ <http://alarabiya.net> (alarabiya.net) accessed on 15 March, 2022.

¹² [1 - Icedrive](http://www.icedrive.net) 機関誌「スムード」のアーカイブ accessed on 15 March, 2022.

¹³ 同人は、米務省により「ヌスラ戦線」支援者として Specially Designated Nationals (SDN) に指定されている。[Treasury Designates Key Al-Nusra Front Leaders](https://www.treasury.gov/press-releases/Pages/pr111111.aspx) accessed on 15 March, 2022.

¹⁴ 同人はアルカーイダ幹部として SDN に指定されている。[Treasury Targets Three Senior Al-Qa'ida Leaders](https://www.treasury.gov/press-releases/Pages/pr111111.aspx) accessed on 15 March, 2022.

¹⁵ 同人は、2003年にサウジアラビアの治安部隊との銃撃戦で殺害された。[السعودية: يوسف العبيري المطلوب رقم 10 بقائمة الـ 19 غاب عن أسرته سنوات ووالده لم يفتح نبأ مقتله. أخبار](http://www.aawsat.com) (aawsat.com) accessed on 15 March, 2022.

¹⁶ 同人のホームページで論文などは参照可能 [موقع الشيخ ابي بصير الطرطوسي](http://www.bizland.com) (bizland.com) accessed on 15 March, 2022

¹⁷ 同人は、アルカーイダ及びビン・ラーディン支援者として SDN に指定されている。[U.S. Treasury Designates Two Individuals with Ties to al Qaida, UBL Former BIF Leader and al-Qaida Associate Named Under E.O. 13224](https://www.treasury.gov/press-releases/Pages/pr111111.aspx) accessed on 15 March, 2022.

¹⁸ 同人は、イランにおけるアルカーイダ要因として SDN に指定されている。[Treasury Targets Al Qaida Operatives in Iran](https://www.treasury.gov/press-releases/Pages/pr111111.aspx) accessed on 15 March, 2022.

¹⁹ 渥美堅持 2015 「今日の中東世界とイスラーム教」『イスラームの基礎講座』東京堂出版 376-381 頁

思想的影響を受けた節がみられる²⁰。2001年の米軍の軍事介入によってターリバーン政権は崩壊した。その後、ターリバーンは、占領の終了を目指し、米軍やNATO軍を相手に武装闘争を継続し、アルカーイダもこれに参戦している²¹。2001年以後は、それまでアフガニスタンでは見られなかった殉教者（自爆）攻撃が発生しているが、これは同手法を駆使するアルカーイダの影響とされている²²。2006年の創刊以後毎月発行されている「スムード」における上記で指摘された箇所などは、ターリバーンのグローバル・ジハード主義者との関係やその思想との親和性を示している。「スムード」にはアラブ人（すなわちターリバーン運動のメンバー以外）による寄稿も多いが、執筆者が誰であれ、自らの名義（イスラーム首長国）で発行する機関誌上での掲載は、寄稿者と同じ立場・思想にあると見られても否定し難い。

（2）書籍「アフガンの大地のイスラームの星から」

アル=バルーシュ編集部長は、2016年5月に「アフガンの大地のイスラームの星から」との著書²³を執筆した。同書は、同人が「スムード」に掲載した「殉教者の隊列」と題する記事をベースに一冊の本にまとめた内容で、殉教者たちの貢献を讃えている。同書が取り上げた殉教者には、自爆攻撃を行ったアルカーイダのアラブ人メンバーも含まれている。例えば、ホラサンのアルカーイダの機関誌「ホラサンの先駆者」にも登場するアブー・アッザーム・アル=マッキー（2011年頃に死亡）や2006年頃にアルカーイダのキャンプに合流したアブードゥジャナ・アル=マッキーである。アラブ人の合流に関してアル=バルーシュ編集部長は、「スムード」88号（2013年）の中でも「アブー・アッザーム・アル=マッキーとその一行のアフガニスタン入りを熱烈に歓迎した。彼らがアラブの兄弟だと知って歓喜した」と当時の状況を述べている。

同書籍の「はじめに」の挨拶文の寄稿者は、サラフィー・ジハード主義論者のハニー・アル=シバイ²⁴であり、二人目の挨拶文の寄稿者は、アフマド・ムフタル「スムード」編集局長である。ムフタル編集局長は、9・11の数日前にビン・ラーディンに会い、ビン・ラーディンの伝記執筆のため取材を申し込んだところ、ビン・ラーディンから「生前に本人から聞くものではない」とたしなめられたエピソードを紹介した。それゆえ、ビン・ラーディン殉教後に、いかにアルカーイダ指導者がイスラームのために奉仕したかを次世代に伝える目的でアル=バルーシュ編集部長が同書を執筆したと趣旨を明かしている。

この殉教者列伝の1番目に登場するのが、ムッラー・モハメド・オマル最高指導者で、2番目が、オサマ・ビン・ラーディンである。ビン・ラーディンを「イスラーム共同体（ウン

²⁰ ターリバーンによるアフガニスタンの全土制圧後、中央アジアのイスラーム過激派と連携し同地域への進出を目指していたとされる。高橋博史 2021 「ウサーマ・ビン・ラーディンとムッラー・ウマルの野望」『破綻の戦略-私のアフガニスタン現代史-』東京出版、187頁

²¹ Seth G. Jones et al., (2011) The Long Shadow of 9/11: America's Response to Terrorism (pp. 37-46). RAND Corporation. [Lessons from the Tribal Areas from The Long Shadow of 9/11: America's Response to Terrorism on JSTOR](#) accessed on 15 March, 2022.

²² Abdul al-Bali Atwan (2013) Ma ba 'ad bin Ladin: al-Qaida, al-Jil al-tali, Dar al-Saqi (p36). また、イランのアルカーイダ要員とされるムスタファ・ハーミドは、「スムード」に掲載された同人名の論文で殉教者攻撃の効果を解説している。

²³ 同書籍はダウンロード可能。 [من نجوم الإسلام في بلاد الأفغان : Free Download, Borrow, and Streaming : Internet Archive](#) accessed on 15 March, 2022.

²⁴ 同人は、アルカーイダに合流したエジプトのジハード団メンバーとしてSDNに指定されている。 [Treasury Designates Seven Al Qaida Associates](#) accessed on 15 March, 2022.

マ) の獅子・グローバル・ジハードの革新者」と紹介し、ビン・ラーディンをたたえる詩を掲載するに加え、アル＝バルージュ編集部長は、次のように述べている。

「愚かな不信仰者と卑怯者たちは、オサマを殺害できていない。むしろ、オサマの血一滴毎に1,000人のオサマを誕生させた。無知なる敵よ、近い将来、オサマの子供たちによる復讐を待っている。イスラーム覚醒のこだまは、憎い十字軍と残虐な不信仰者を全滅させる。全世界のムスリムよ、絶望するな。むしろ、思い起こせ。我ら預言者ムハンマドが、マッカを解放し、人々の心に信仰を根付かせるまで、どんな困難に立ち向かったか。しかし、勝利とは、預言者ムハンマドやオサマによってもたらされるわけではない。勝利は、至高偉大なるアッラーによってもたらされる。オサマはメッセージを伝え、彼の義務を十分に果たした。オサマが八方ふさがりに陥った際、アッラーは、オサマに休息を与え、預言者、サーリヒーン、殉教者やシッディークたちが滞在する天国にオサマを迎え入れた。」

同書では、9・11を含め、ビン・ラーディンが率いるアルカーイダが実行したアフガニスタン国外での攻撃に対する反省は見られない。また9・11が米軍のアフガニスタンへの軍事介入につながったことへの考察も全く見られない。むしろ、アル＝バルージュ編集部長がビン・ラーディンを預言者たちと並び称し、英雄と見なし、その思想の継承を打ち出している。ターリバーン創設者のムッラー・モハメド・オマルは、亡くなる前に、一部の幹部たちの前で、アルカーイダを「陰謀や策謀によって暴虐を働く人びと」と厳しく非難した(音声スピーチが存在する)とのエピソードがある。同スピーチでは、ムッラー・モハメド・オマルは、「陰謀や策謀によって暴虐を働く人びと(アルカーイダ)」との協働を否定し、「悪に染まった人々と過激主義」をターリバーンから排除する必要があることを示し、その具体的な方法も指示したとされる²⁵。もし、ムッラー・モハメド・オマル故最高指導者が9・11などを巡りビン・ラーディンらに手を貸してしまったことを悔悟したのであれば、ターリバーンが殉教者列伝の1番目にムッラー・モハメド・オマル最高指導者、2番目にビン・ラーディンの順番にすることはありえない。ムッラー・モハメド・オマルの死亡は、2013年4月である。同書が発行されたのは、2016年であり、ムッラー・ムハメド・オマルが亡くなる前に示したとされる「悔悟」と「ターリバーンからの過激主義の排除」の指示と矛盾する²⁶。また、同書が発行された2016年の時点では、9・11から15年、ビン・ラーディンの殺害から5年経過しており、アルカーイダの思想や戦略(の誤り)をターリバーンとして総括するのであれば、その時間は十分にあった。しかしながら、同書は、ビン・ラーディンの英雄化とその思想の継承を企図している。「グローバル・ジハードの革新者」とは、「グローバル・ジハード」に意義を見出していなければ、殉教者として称える際には出てこない表現である。

(3) 論文「ターリバーンの思想の基礎」

²⁵ 高橋博史 2021「ターリバーン最高指導者の悔悟と死」『破綻の戦略-私のアフガニスタン現代史-』白水社、7頁

²⁶ 音声テープを持った人物が『破綻の戦略』著者の高橋博史氏を訪問したエピソードは本当であろう。元々友人であったとしても、日本の外交官に「ムッラー・オマルは悔悟した」と説明して音声データを渡すことは、当然、その内容が外務本省に報告されることを分かっているはずである。外交官が入手する情報としては、即座に外交公電で報告する種類の情報であり、何らかの形で米国にも共有したかも知れない。こう考えると、「ターリバーン最高指導者ムッラー・オマルは悔悟し、アルカーイダと関係を断絶する(した)」との意図的な宣伝の可能性も考えられる。

「スムード」の44号、45号、47号、48号（いずれも2009年）、49号（2010年）の5回にわたって「ターリバーンの思想の基礎」と題する論文が掲載された²⁷。同論文は、ターリバーンの思想を体系的に示しており、ターリバーンの思想と行動を示す最良の手引きとされる²⁸。この点は、筆者も同意見である。同論文は、アブドルワッハブ・アル＝カーブーリ（カーブル出身を意味する）名であることからアフガニスタン人であると同論文を翻訳した研究者は紹介している。しかしながら、同論文は、①ターリバーンの思想を評価する際に、三人称（彼ら＝ターリバーン）が用いられている点、②冒頭、「ターリバーン運動の実態、歴史的事件や事態の推移に直面してターリバーンが採った対応から我々が演繹したところの、その（ターリバーンの）思想の基本原則」と断り書きがある点、③他称である「ターリバーン」との文言が頻発（「スムード」中に「ターリバーン」の呼称は登場するが、その場合、アラブ人執筆者による寄稿の場合が多い）していることから、アフガニスタン人のターリバーンのメンバーが当事者として自分たちの思想の基本的原則を書いた論文としては不自然な点が多い。同論文11(4)「世界のジハード運動とムジャーヒドたちに対するターリバーンの見解」232-243頁は、次のように論じている。

「ターリバーンは、イスラーム、イスラームの信条、イスラームへの献身と奉獻、ムスリムの土地の防衛とアッラーの御言葉の宣揚がムジャーヒドを連帯させている限りにおいて、世界のジハード運動の一体性を信じている。それゆえ彼らの宗教が一つであり、彼らの啓典（クルアーン）が一つであり、彼らの預言者が一人であり、彼らと戦う共通の敵が一つであり、イスラーム政体樹立の夢が一つであるなら、あらゆる場所における国際的不信仰に対して彼らが一体となることを何が妨げるであろうか。真理と宗教の防衛という課題において協力し、助言しあい、共に耐え忍び、互いに助け合うことを、何が彼らに妨げようか。今日、互いに数え切れないほどの違いがあるにもかかわらず、オーストラリアの十字軍とカナダの十字軍が手を組み、ポーランドの十字軍がグルジアの十字軍と手を組んでいるというのに、なぜ西方のムジャーヒド（戦士）が東方のムジャーヒドと手を組まないというのか。イスラームとムスリムの土地の防衛の問題はイスラーム共同体（全体）の問題であり、個人や国や組織の問題ではない。それは信条と、ムスリムを一つの共同体とする宗教の問題なのである。『これこそ一つの共同体としてのお前たちの共同体。そして我こそは汝らの主である。それゆえ我を崇めよ。』（21章 92節） 今日、敵たちはムジャーヒド（戦士）たち全てを一行に攻撃しており、アッラーの宗教を護る者全てに対して国際的な連合同盟を組んでいる。それゆえアッラーの道のムジャーヒドたちも敵に対して一体となり、相互扶助に邁進しなければならない。」

上記では、世界のジハード運動の一体性の原則が示されている。翻訳者は、論文著者の言葉使いから、これは「スンナ派イスラーム主義武装闘争派ネットワークの内部の人間」による執筆であると判断している。この見立ては、正解である。なぜなら、同論文の執筆者は、アルカーイダのシリア支部であるヌスラ戦線から分派したタハリール・アル＝シャーム機

²⁷ [أرشيف المجلة - مجلة الصمود الإسلامية \(alsomood.af\)](http://alsomood.af) 機関誌「スムード」のアーカイブ accessed on 15 March, 2022.

²⁸ 中田考 2021 「翻訳解説」『ターリバーンの復権』ベスト新書 132-148 頁

構 (HTS) 幹部のイラク人アブーマリヤ・アル＝カハターニ²⁹の名で知られるマイサル・アリ・ムーサ・アブダッラー・アル＝ジュブリ³⁰である。そうであるからこそ、アブーマリア・アル＝カハターニは、世界のジハード運動を戦う立場から、次のように論文を結んでいる。
(() 内は筆者の追記箇所)

「彼ら (=ターリバーン) の行動がそれ (世界のジハード運動との一体性に関するターリバーンの見解) を実証し、彼ら (=ターリバーン) の理念が理念で終わらないよう、我々からなる確固たる隊列を彼ら (=ターリバーン) が創設するように、アッラーが彼ら (=ターリバーン) を助けたもうことを我々 (すなわち、HTS などのムジャヒディン) は、アッラーに祈る」

HTS は、アルカーイダの支部のままではシリアでの他の反体制派との共闘に支障をきたすためヌスラ戦線から分派し、シリアのイドリブでターリバーンをモデルとした活動を展開しているとされる³¹。これは、HTS 幹部のアブーマリヤ・アル＝カハターニが、ターリバーンの行動を外から分析して導いた結果と考えられる。

(4) アラビア語広報の位置付け-資金集めの PR かターリバーンの思想の本質か-

シリア内戦に参加するアルカーイダ系のイラク人で HTS の幹部が執筆した論文であっても、ターリバーン (イスラーム首長国) 広報センターが、アフガニスタン人と思わせる偽名で「スムード」に掲載するということは、論文が示す思想は、基本的に、(グローバル・ジハード運動との一体性も含め) ターリバーンの思想 (と合致している) と捉えられても不思議ではないだろう。しかしながら、ここで、注目すべきは機関誌「スムード」の位置づけである。「スムード」は、アラビア語のみで発行されており、ターリバーンの HP の「ジハードの声」のようにパシュトーン語、ダリ語、英語、ウルドゥ語に翻訳されているとの情報は無い。本来、機関誌 (紙) とは、外部に対しては宣伝であると同時に、内部に対しては、執行部の見解をメンバーに伝え、思想面での組織固めや意見の統一のためにも利用される。

「スムード」が 2006 年の創刊以来、都度、現地語に翻訳・配布されていれば、グローバル・ジハードに親和的なターリバーンの思想傾向は疑う余地はない。アラビア語の発行物がターゲットとする読者は当然アラブ人である。しかも、アラブ人寄稿者の傾向から、アラブ世界に一定数いるグローバル・ジハード支持者からのターリバーンへの支援・支持獲得の狙いが見える。また、グローバル・ジハードとまでいかなくても、アフガニスタンでの占領の終了に加えて、パレスチナ問題などイスラーム共同体 (ウンマ) の課題に取り組む (姿勢を示す) ことや (西欧世界に対峙する形を含めて) ウンマの理念を掲げること自体は、一般のアラブ人を対象にしても、超国家的であるイスラーム共同体の理念からは、それほど特異で

²⁹ 同人はヌスラ戦線幹部として SDN に指定されている。 [Treasury Sanctions Al-Nusra Front Leadership in Syria and Militias Supporting the Assad Regime](https://www.carnegie-mec.org/2022/03/15/treasury-sanctions-al-nusra-front-leadership-in-syria-and-militias-supporting-the-asad-regime)

³⁰ アブーマリヤ・アル＝カハターニの信奉者が開設している HP でアル＝カハターニ名による複数の論文が掲載されている。その中に「ターリバーンの思想の基礎」が含まれている。 [رجال الشام الأوفياء \(مهاجرون و أنصار\): الدعائم الأساسية لفكر طالبان \(الإمارة الإسلامية\) \(abu-aicha-chami.blogspot.com\)](http://abu-aicha-chami.blogspot.com) accessed on 15 March, 2022.

³¹ [لماذا يتردد صدى كاتل في إدلب - مركز كارنيغي للشرق الأوسط - مؤسسة كارنيغي للسلام الدولي \(carnegie-mec.org\)](https://www.carnegie-mec.org/2022/03/15/لماذا يتردد صدى كاتل في إدلب - مركز كارنيغي للشرق الأوسط - مؤسسة كارنيغي للسلام الدولي) accessed on 15 March, 2022.

はない。

イスラーム運動としてアラブ人（外国人）に支援・支持してもらう上では、ある程度、国際性は必要である。なぜなら、アフガニスタン国内だけの限定的な課題に取り組む運動になぜ外国人が支援するのかとの片務性の問題がある。アラブの篤志家からの支援は、長年、アフガニスタンにおける占領の駆逐を目指す戦いを継続する上では、財政上も必要であったと考えられる。一般的に、レシピエントがドナーの志向に寄り添う姿勢を見せることや、ドナーがレシピエントの活動に口を出すことはある。実際に、湾岸の裕福層からの支援者は、ビン・ラーディンの死後、アルカーイダ中枢ではなく、直接、ターリバーンへの送金を好むようになったとされる³²。そう考えると「スムード」におけるグローバル・ジハードに親和的な論調は、「対アラブ人の PR」として割り切れるものか、それとも、「ターリバーンの思想の本質」を表しているのだろうか。その両方であれば、どちらの要素が強いのか評価すべである。

1994 年、荒廃するアフガニスタンにおいて、神学生による「イスラーム的な救済運動」としてスタートし、アフガニスタンの民衆にターリバーンが支持される理由として、①治安をアフガニスタンにたらした実績や、②外部者の横暴な態度へのアフガニスタン人の反発が挙げられる。こうした民衆の支持がターリバーンの強靱さの裏づけとされる³³。そうした中、アフガニスタンの民衆が、グローバル・ジハードの思想を支持するかと言えば、それは考えにくいだろう。だからこそ、ターリバーンは、広報誌と言語と論調をターゲット層毎に使い分けているのかも知れない。この点、当事者が発信する一次資料の大切さに鑑み、現地語資料、特にターリバーン運動内部の綱領的な文書を、「スムード」中の論調や世界観と突き合わせながら読み解く必要がある。

上記を踏まえたとしても、「アフガンの大地のイスラームの星から（著者：アル＝バルーシュ編集部長）」は、全 285 頁の大作である。また、本の執筆とは骨の折れる作業である。アラブ人のグローバル・ジハード論者の論考をそのまま「スムード」に掲載する作業（寄稿依頼、原稿入手や構成）に比較して、執筆作業に伴う熱量は全く違う。グローバル・ジハードへの親和性は PR に過ぎないと判断するには見過ごせない作業量とビン・ラーディンの英雄化である。「スムード」編集局長のアフマド・ムフタルは、ドーハ合意の交渉に参加しており、「スムード」の最終責任者は、アミール・ハン・ムッタキ外相代行（指導部評議会のメンバーの一人、ドーハ合意の交渉団メンバーでターリバーン側の署名者）とされる。すなわち、「スムード」は政治部門による制作である。国際社会との交渉を含めアフガニスタンの統治の方向性に関して、ターリバーン内の政治部門と軍事部門の路線対立³⁴が指摘されている。路線対立に関して、政治部門が制作している「スムード」の論調を把握すると、軍事部門＝グローバル・ジハードに親和的、政治部門＝地域限定のイスラーム運動、との対立軸ではないように見える。元戦闘員であるアル＝バルーシュ編集部長の著書にドーハ交渉に参加する政治部門のアフマド・ムフタル編集局長がビン・ラーディンとのエピソードを振り返る「挨拶文」を寄稿していることから両部門共に、思想的にはグローバル・ジハードに親

³² Abdul a-Bali Atwan (2013) Ma ba' ad bin Ladin: al-Qaida, al-Jil al-tali, Dar al-Saqi (p36).

³³ 青木健太 2021 「米軍撤退とターリバーン復権-アフガニスタン政権崩壊の背景」『中東研究』543 号, 135 項

³⁴ [「深刻なアフガニスタンの人道危機、国際社会はどうか対応すべきか」\(キャッチ！ワールドアイ\) | キャッチ！世界のトップニュース「特集・ワールドアイ」 | 解説アーカイブス | NHK 解説委員室](#) accessed on 15 March, 2022.

和的であり、今でも、ターリバーンの中核メンバーの思想に影響を与えている可能性を示している。アル＝バル＝シュ編集部長は、2016年まで「スムード」の一編集部員であったが、著書「アフガニスタンの大地のイスラームの星から」を発表した同年に部員から編集部長に昇進している。ビン・ラーディンを称える執筆者の昇進は、アルカーイダの思想との決別とは反対の動きである。

1994年、内戦に苦しむアフガニスタンで、イスラームにより統一やイスラームの統治を掲げる救世運動として登場したターリバーンは、その後アルカーイダの思想的影響を受けたとされる。それでも当時は、自身の広報誌でアルカーイダ関係者やアルカーイダを支持する論者の思想をそのままターリバーンの広報媒体で宣伝したとの情報は見当たらない。一方、2001年以後の外国軍へのジハードの最中における情報戦で、アルカーイダの思想に親和的な傾向が示されるようになった。2007年からアルカーイダの支持者は、インターネット上でターリバーンの戦いを支援するよう呼びかけはじめ、アルカーイダ自身もアミール・アル＝ムーミニーン（信徒たちの長）を資金集めの顔にし、ターリバーンのため資金を集めてきた³⁵。そもそもターリバーンに替わるアフガニスタン政権樹立とこれへの支援は、2001年の安保理決議第1378号³⁶により全会一致で決議されている。そうした中、（地政学的な理由によりターリバーンを支援する理由がある国家主体を除き、）アフガニスタンにおいて武装闘争を継続するターリバーンを支援する有力な組織は、アルカーイダなどのグローバル・ジハード主義者やその支持者以外にはいない。こうした外的要因が両者の思想面での距離を狭めた可能性がある。

「スムード」37号（2009年）は、「（政体・統治機構を含め）ウンマの統一は宗教的義務とし、一人のアミールの指導下統一されるべき」との論文を掲載した³⁷。こうした論文は、イスラームの思想に基づいて目指すべき世界の理念としては、必ずしも特異な内容とは言えない³⁸。しかしながら、その実現は（アフガニスタンを含む）近代の国民国家によって構成される国際社会の枠組みとは両立しない。機関誌での掲載とは、目指すべき世界の方向性を具体的に示すことである。こうした論文には、ターリバーン運動の結成時の目標を超える国際性が見られる。その後、同論文の主張に沿うように一人のアミール・アル＝ムーミニーンであるターリバーン最高指導者への忠誠を誓うアフガニスタン国外のアルカーイダ系組織の動きが見られる³⁹。単にアルカーイダなどの側の片思いとは言えない側面を有していることが分かる。

5. 取引材料としてのコミットメント

ドーハ合意 Part2 の3は、テロ組織のリクルート、訓練、資金集めにアフガニスタンを利

³⁵ [أرشيف المجلة - مجلة الصومود الإسلامية \(alsomood.af\)](http://alsomood.af) 機関誌「スムードの」アーカイブ accessed on 15 March, 2022.

³⁶ [United Nations Security Council Resolution 1378 - Wikisource, the free online library](https://www.wikisource.org/wiki/United_Nations_Security_Council_Resolution_1378) accessed on 15 March, 2022.

³⁷ Abdul a-Bali Atwan (2013) Ma ba' ad bin Ladin: al-Qaida, al-Jil al-tali (p172).

³⁸ カリフの擁立やカリフ位の制度自体はイスラーム思想では間違っていないとされる。松山洋介 2017「カリフ問題」『イスラームの思想を読みとく』ちくま書房 168-175頁

³⁹ 2011年、ボコ・ハラム（当時）やアラビア半島のアルカーイダ（AQAP）は、一人のアミール・アル＝ムーミニーンであるターリバーン最高指導者への忠誠を誓った。同注 37 p182. また、2014年「イスラーム国」（ISIL）指導者のバグダディが「カリフ」を名乗った後、アイマン・ザワヒリは改めてターリバーンの最高指導者であるアミール・アル＝ムーミニーンに忠誠を誓った上で、「アルカーイダの全支部はアミール・アル＝ムーミニーンの兵士である」と発表した。Abdul al-Bali Atwan (2015) al-Da'ula al-Islamiya: al-Juzu'ur, al-Tawahshu, al-Mustaqbal (p227).

用させず、また、滞在させないことを規定している。しかしながら、同コミットメントを検証するメカニズムの存在の有無や有効性は不明である⁴⁰。アフガニスタンに滞在する諸組織に他国への攻撃を控えさせること以上の対応（＝滞在させない）をターリバーンが取るインセンティブがあるとは考えにくい。加えて、そもそも、ドーハ合意の Part2 は、米国とその同盟国に対して脅威となりえるグループと個人を対象としている。国際社会は、米国とその同盟国だけで構成されるわけではないので、ドーハ合意の文言からは、論理的には（米国とその同盟国以外を標的とする限り）アルカーイダなどがアフガニスタンを拠点とすることは合意違反にならない。そして何よりドーハ合意の核心である「米国及びその同盟国を攻撃するためにアフガニスタンを利用させない」とのコミットメントを、ターリバーンが、外国軍撤退後も維持するインセンティブの設定や環境の醸成は考慮されたのだろうか。

2022年1月23日、ターリバーン政権のシラージュディーン・ハッカーニー内相代行がアラビア語衛星放送「アル＝ジャジーラ」に登場した。米務省は、同人につながる情報に10百万米ドルの懸賞金⁴¹をかけており、FBIは、お尋ね者として指名手配している中でメディアへの登場となった。同インタビューでハッカーニー内相代行は、ターリバーン政権の「政府承認」に関して脅しとも取れる発言⁴²をしている。

「米国とドーハで交渉した際、米国側が、（ターリバーンとの）合意の条件として、アフガニスタンを他国への攻撃拠点としないことを求めてきた。我々は、米国が出してきた条件を受け入れ、そして、この約束を守っている。今度は、米国が約束を果たすべき。我々、一方だけが約束を守ると期待するのは許されない。正式に政府承認されたアフガニスタン政府であるイスラーム首長国だけがドーハ合意における我々（ターリバーン）のコミットメントを守る。イスラーム首長国（ターリバーン政権）を承認しないことは、アフガニスタン人民への敵意が継続していることを意味する。」

裏を返せば、政府承認されないのであれば、アフガニスタンを他国への攻撃の拠点としないとのコミットメントは、守らないとのメッセージである。メディアを利用し米国に揺さぶりをかけている。ドーハ合意では、政府承認は明示的に規定していないが、「両国は肯定的な関係の構築を目指す」とあり、ハッカーニー内相代行は、肯定的な関係をリファーしていると思われる。ハッカーニー内相代行の発言から分かるのは、ターリバーンにとって、ドーハ合意 Part 2 のコミットメントとは、（思想的にターリバーンと決別、あるいはアルカーイダとの共闘関係を解消しているかどうかではなく、）現実政治の中で、損得を考えながら、維持すべきかどうかを含めて政策的に判断する取引材料になっていることを示している。

ドーハ合意締結から2周年の2022年3月1日付ターリバーンの声明は、「アフガニスタン・イスラーム首長国の立場と方針として、他国に危害を与え、あるいは脅迫する意図はな

⁴⁰ アフガニスタン政府のサーレフ第一副大統領は、ターリバーン側のコミットメントを検証するメカニズムが存在しないドーハ合意は致命的な誤りと批判していた。「自由の番人作戦 第一四半期報告書 2021」12頁 [DoD OIG Reports \(dodig.mil\)](https://www.dodig.mil) accessed on 15 March, 2022.

⁴¹ [Rewards for Justice - Reward Offers for Information on Haqqani Network Leaders \(state.gov\)](https://www.state.gov) accessed on 15 March 2022

⁴² [حقاني: لا وجود لشبكة حقاني "بل هي مؤامرة أميركية لبث الفتنة في أفغانستان | حوارية الجزيرة نت \(aljazeera.net\)](https://www.aljazeera.net) accessed on 15 March 2022

い。同様に、他国もアフガニスタンの人々に対してドアを開き肯定的な関係を築くことを促す、そうすることによって現在起こりそうになっている全ての困難を回避することができる」と発表した⁴³。公式声明でも、①他国へ危害を加える意図の有無、と②肯定的な関係の構築、の2つをリンクさせている。ドーハ合意後から現在に至るまで、アフガニスタンを拠点とした（アフガニスタン国外での）米国やその同盟国への攻撃は発生していない。コミットメントは守られている⁴⁴。しかしながら、第2項で示したようにドーハ合意の Part1 と Part2 は非対称である。ターリバーンは、外国軍の撤退を実現させるために合意事項は守ってきた。その後も守るかどうかは、相手（米国）次第との姿勢を示している。あるいは、示さざるを得ない状況に追い込まれている。

6. 最後に

「スムード」では、ターリバーンと競合するイスラーム国ホラサン州（ISKP）を批判する論文は掲載⁴⁵されているが、アルカーイダなどの活動や思想を批判する論文はこれまでのところ見当たらない。むしろ第4項で示したようグローバル・ジハードに親和的な傾向である。ターリバーン（イスラーム首長国）広報センターが発行する「スムード」での HTS（旧ヌスラ戦線）幹部が執筆した「ターリバーンの思想の基礎」は、ターリバーンのグローバル・ジハードへの親和性を示している。ムッラー・オマルは、亡くなる前に（グローバル・ジハードの）夢から覚めて悔悟しなのではなく、ターリバーンは、「果てなき夢」をみている可能性がある。

CIA が公開したアボタバード・コンパウンドから押収した文書は、ターリバーンにとってのアルカーイダとの関係の重要性につき、①アルカーイダがパキスタンとの国境の部族エリア一体に有する戦略的ネットワーク、②両組織が裨益する外部からの浸透工作に対する共同の防諜活動、③アルカーイダが運営する重要施設、などによる安全保障上の価値を列挙している。これに加え、長年の武装闘争の蓄積により、両組織は、組織上や実務上のレベルで混在しており、ターリバーンにとって、アルカーイダとの共闘関係を解消することの危険性とその困難さを示している⁴⁶。組織上の関係は、本稿のテーマではないが、アフガニスタンで共通の敵である米軍や NATO 軍に対峙する過去の 20 年間の武装闘争の過程で、両組織の関係が強化されたとしても不思議ではない。そうすると、軍事介入という外的な要因により、組織面と思想面の両方で両組織の結びつきが強まったことになる。アルカーイダの勢力や活動が全盛期より低調にあること自体は、問題の本質ではなく、安心する材料ではない⁴⁷。

1996 年にビン・ラーディンは、「戦闘員を米国内に送りこんで戦っても米国には勝てない。しかし、アラブ・イスラームの大地に米国を引きずり込めば勝てる」と、アラブ人ジャ

⁴³ [Statement of Islamic Emirate regarding 10th of Hooth, the 2nd anniversary of Doha agreement - Islamic Emirate of Afghanistan \(alemarahenglish.af\)](#) accessed on 15 March, 2022.

⁴⁴ 例外として、パキスタンターリバーン運動（TTP）は、アフガニスタンの拠点からパキスタン領内へ攻撃を展開し、パキスタン軍の反撃から逃れるためにアフガニスタンを利用しているとされる。ただ、ドーハ合意で禁止される米国の同盟国に該当するかどうかは、ドーハ合意中で「同盟国」が定義されていないため不明。

⁴⁵ [اعرف الغلاة واختر منهم - مجلة الصومود الإسلامية \(alsomood.af\)](#)

⁴⁶ PDF000503 [November 2017 Release of Abbottabad Compound Material \(cia.gov\)](#) accessed on 15 March, 2022.

⁴⁷ 米オースティン国防長官は、アルカーイダの勢力は 2 年で脅威になるレベルに再編されると評価している。[Al-Qaida could regroup in Afghanistan in 2 years, says US defense secretary \(militarytimes.com\)](#) accessed on 15 March, 2022.

ーナリストに語っている。「アルカーイダ 2020 年までの戦略」の第一フェーズも同内容である⁴⁸。ターリバーンを直接攻撃し、イスラームの聖戦（ジハード）が成立するような危険な環境を作った「不朽の自由作戦」と後続の「自由の番人作戦」こそが、ターリバーンとアルカーイダの関係強化につながった結果も含めて「破綻の戦略」であった。

ドーハ合意後の安保理決議（2020 年 3 月 10 日付第 2513 号）は、ドーハ合意を歓迎しつつも、「アフガニスタン・イスラーム首長国」の復権は認めないとし、アフガン人同士の対話を促した⁴⁹。ターリバーンは、アフガニスタン人同士の和平協議のプロセスを経ていない「アフガニスタン・イスラーム首長国」の復権を安保理が認めない、すなわち、差し当たり、ターリバーン政権が政府承認されないことを知っていた。それでも、武力を背景とした全土制圧を追求した。これは、ターリバーンが、長年戦ってきた①「外国軍による占領の終結」と②「イスラームの統治の実現」の2つの目標は一体不可分だからである。ガニ政権との権力分配や占領下で築かれた統治のあり方や憲法を踏襲することはターリバーン運動の存在意義を棄損する。一方、ハッカーニー内相代行の発言やターリバーンの声明は、Part 2 のコミットメント維持は、取引の対象になることを示している。外的要因により 20 年かけて強化された両組織の結びつきを、元に戻すところから始めなければならない。ターリバーンと国際テロ組織との関係はアフガニスタンと国際社会の行方を左右する。現実的には、政治的な政策と関与によって、ターリバーンがアルカーイダを必要としないような環境を積極的に作っていくべきである。その意味でターリバーンの Part 2 へのコミットメントの維持は、0 か 1 ではなく、長期間かけて、現状からの改善を目指す取り組みにならざるをえない。

思想的な面においては、今年 17 周年を迎えた「スムード」193 号（2022 年 2 月 15 日発行）は、アフガニスタンにおけるイスラームの統治を実現する際の参考として、ハナフィー法学派の著名なイスラーム法学者であるアブドル・カリーム・ゼイダン師（イラク人）の著書「ウスール・ダッアワ」の第 4 章「イスラームにおける統治：イスラーム的統治の目的」を掲載⁵⁰している。同書は、イスラーム学部の参考資料として紹介されることもある。同論文は、イスラーム法の基本的な内容を整理しており、伝統的なイスラーム法学に依拠しているとされる。ターリバーンが属する法学派と同じハナフィー法学派に分類される故ゼイダン師のような伝統的なイスラーム解釈を重んずる法学者とターリバーンとの対話創出は好ましい変化をもたらす機会の一つである。イスラーム諸国・諸組織の関与が期待される。

アルカーイダのシリア支部から分派した HTS のイラク人宗務責任者のアブーマリア・アル＝カハターニは、「スンナ派イスラーム主義武装闘争の理論」に詳しい。しかし、アル＝カハターニは、モスル大学でシャリーアを学んだ学部レベルであり「イスラーム法学者」とは見なされない。何よりアフガニスタン人は、頑なにアフガニスタン人の生き方を守るとされる。20 年前とは違うアプローチをとることで、イラク人アブーマリア・アル＝カハターニがシリアでの武装闘争の傍ら、ターリバーンの行動を部外者として外部から演繹した結果、「世界のジハード運動との一体性」という自らの願望も含めて執筆した思想（「ターリバーンの思想の基礎」）とアフガニスタン固有の文化を大事にするターリバーンとの思想面での距離も出てくるだろう。

⁴⁸ Abdul a-Bali Atwan (2013) Ma baad bin Radin-al-Qaida: al-Jil al-tali, Dar-al-Saqi (p17).

⁴⁹ [Security Council Resolution 2513 - UNSCR](#) accessed on 15 March, 2022.

⁵⁰ [مقالات العدد الأخير - الصفحة 2 - مجلة الصومود الإسلامية \(alsomood.af\)](#) accessed on 15 March, 2022.